



青谿書院交流学習館いよいよオープン



7月14日(月)10時30分より、谷 公一 衆議院議員 藤田 孝夫 県議会議員 谷垣 満 市議会議員をはじめ多くの来賓の皆様を迎えオープニングセレモニーが挙行されました。地元キャラクターそうあんくんも参加してテープカットからのスタートです。(上記 写真)

式典は大林 賢一 市長の式辞の後に施設の概要説明があり、来賓3名の方からご祝辞をいただきました。その後地元関係者として宿南地区自治協議会維田会長のあいさつがありました。

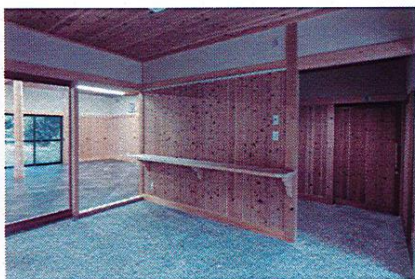
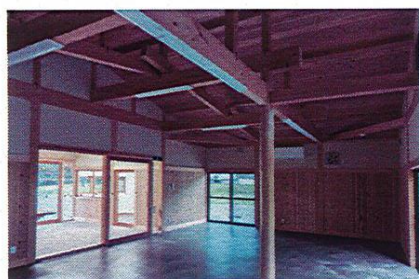
落成の御礼として宿南小学校26名の「そうあん先生の歌」が披露されました。

地元の皆様にも青谿書院に足を運んでいただき、青谿書院交流学習館にも是非お越しください。

駐車場(大型バスもOKです)空調設備、トイレも完備された施設です。

(詳細は次ページ)





施設概要

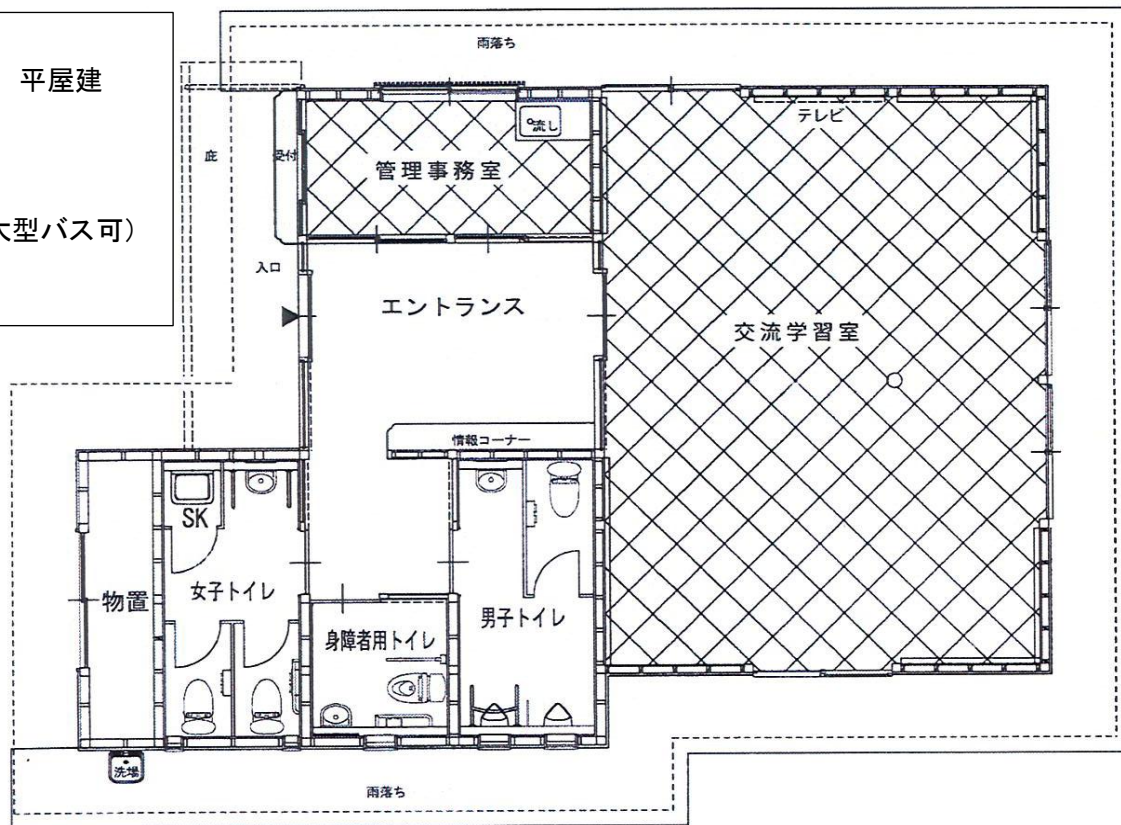
構造 木造 平屋建

延床面積

93.14 m²

駐車場面積

1,150 m² (大型バス可)



竣工した交流学習館

第21回ボウリング大会 開催

7月12日（土）夜7時スタートで豊岡のアーバンボウルに於いて、今回は小学生8名、大人17名参加で開催しました。各レーンとも白熱したゲーム展開が行われていました。

2ゲーム合計による得点で入賞者表彰が行われました。

上位入賞者のみ報告します。



一般の部

優勝	坂本 憲宏 さん	300点
準優勝	西村 芳一 さん	286点
三位	西村 正 さん	279点

小学生の部

田中 仁大 さん	205点
坂本 憲信 さん	186点
土井 慧叶 さん	181点

おめでとうございます。

次回は令和8年2月28日（土）夜7時スタートです。

予定に入れておいて下さい。

多くの皆様の参加お待ちしております。



そうあんの里 夏のつどい 開催

7月21日（月）ふれあい倶楽部ホールで福祉部主催「夏のつどい」が39名参加で行われました。

地元三志会の皆さんに出演いただき津軽三味線の演奏、民謡、銭太鼓の披露をいただき、賛助出演で花木木の会の皆さんで銭太鼓、踊りの披露がありました。最後に、やちゃ踊り保存会の皆さんによる「宿南音頭」の踊りの輪ができ楽しい時間を過ごしました。ひまわりカフェのコーヒーとお菓子をいただき真夏の半日を涼しく過ごしました。



身近で見られる植物 ⑤0

タケニグサ〈ケシ科〉

山野の荒れ地に多く生えています。シカは好んで食べないので繁茂しつつあります。名前の由来は、竹と一緒に煮るとやわらかくなるという説と茎の中が中空のため竹に似ているという説があります。

白く見える花は花卉ではなく二枚の萼片です。大きいものは人の背丈ほどの高さになります。



※

訂正のお願い

168号④8を④9に変更願います

夏休み

こども青谿書院塾 開催

7月23日（水）青谿書院本館で学びの里プロジェクトの皆さんによる小学生対象の青谿書院塾が開催されました。17名の参加がありました。

夏休みが始まったばかりなので真剣に宿題に取り組みました。



お知らせ

8月13日～15日 宿南地区自治協議会 盆休み

8月14日（木） 盆踊り大会

8月22日（金） 夏休みラジオ体操 最終日

8月23日（土） 宿南地蔵祭り

9月 7日（日） 養父市一斉避難訓練



草庵先生紹介

日記 78



天守閣の見える福知山城内の部屋で朽木綱張（背中向き）らに講義する草庵

宮崎和夫さん作

生野の変はあっけなく終わったが、多くの人たちに時勢が大きく変化していることを知らせるものであった。全国の諸藩にとっては、このような中で自分たちの藩がどうあればいいかなどをそれぞれに模索しなければならなかった。青谿書院の近辺の藩では、直接草庵に教を要請してきた。

生野の変の翌年に、福知山藩から草庵に講義の依頼があった。「（前略）本日福知山藩の需官近藤善蔵が藩命を受けた書状を、中島省之介が持ってくる。中島と話しをずっと夜までする」（元治元〈1864〉年8月14日）

福知山藩は、かつて明智光秀の築いた福知山城を居城として丹波を治めていた。そのころの福知山藩主は朽木綱張であった。綱張は、藩に仕えている儒学者の近藤善蔵を通して草庵に講義の依頼をしてきたのだ。草庵は7日後承諾の返事を書いて届けた。

「本日は福知山藩の近藤善蔵に手紙を書く。大石豊後を使いとして赴かせる」（同月21日）手紙を塾生である大石豊後（豊岡の人）に持たせて、福知山に向かわせたのだ。大石は4日後、具体的な日程や段取りを決めて福知山から帰ってきた。そして10日ほど後、草庵は福知山藩に出かけることになった。

「早起き。吉村健介、國屋靖一郎を連れて福知山に向けて出発。この日は和田山の安積氏宅に泊まる」（同年9月3日）「夜、福知山に着く。今日より始まる」（同月4日）

福知山藩で藩主綱張たちへの講義が始まった。講義は20日余りも続き、青谿書院に帰ったのは9月も終わりかけていたころだった。「帰院した。前夜脩児が誕生したということであった」（同月26日）

長い間留守にしていた、書院に帰ってみると次男が無事誕生していたのだ。草庵にはすでに2女1男の3人の子どもがあったが、さらに次男脩児（脩蔵との表記も）を授かったのだ。

福知山藩へは、これを縁にその後数年間は1年のうち3月と9月の2度講義に出かけるようになった。

池田草庵先生に学ぶ会